

身近な合成医薬品・薬がきくところ

今回は科学館の3階、壁いっぱいには生薬が並んだ展示「生薬ウォール」の近くにひっそりとたずむこちらの展示のご紹介です。植物などを中心とした天然物を薬として用いる生薬とは異なり、様々な化学反応を駆使して人工的に作られている合成医薬品について解説している展示です。

解熱剤として用いられるアセトアミノフェンや頭痛薬として知られるアセチルサリチル酸(アスピリン)、抗炎症作用を持つため筋肉痛に効果があるインドメタシンなどの私たちの身近なところにある5種類の合成医薬品を、実験用試薬や分子模型を用いて紹介しています。新薬の開発についてのパネルも設置されており、こちらも読み応えがあります。



展示場3階「身近な合成医薬品」



展示場3階「薬がきくところ」

隣には、生薬と合成薬それぞれの特徴や原料、働きなどを図とともに紹介する展示「薬がきくところ」があります。両脇にある「生薬ウォール」「身近な合成医薬品」と一緒にじっくり見ていただくのがおすすめです。

展示場を歩いていると、このインパクトのある図の前に立って写真撮影をされているお客様を見かけることがあります。科学館の隠れたフオトスポットになっているのかも？

宮丸 晶(科学館学芸スタッフ)

学芸員の
展示場ガイド

「学芸員の展示場ガイド」では、サイエンスガイドの方と色々な展示を動画で紹介しています。ホームページからアクセスできますので、ぜひご覧ください！